

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、さらには、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校。地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

- それぞれの学力向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）
- コミュニケーション能力の向上（ピア・メディエーションの取組など）
- 地域連携の推進

2 中期的目標

- 学力の向上
 - 本校生徒にとって『わかる授業』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。
 - 本校勤務年数が少ない教員へのオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。
 - 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。
 - ICTを活用し、授業改善と業務軽減を行う。
 - ※ 教員が年間5回以上の授業見学を行い、各教科が毎年1回以上の研究授業を実施するようになる。
 - ※ 生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を増やす。(H26年度58%)
 - 生徒の学習習慣を確立させることを通して、学習意欲を向上させる。
 - 生徒が放課後に校内で勉強できる場(自習室・図書室)を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。
 - ※ 日々の放課後に自習室・図書館を利用して学習する生徒がいる状態にする。
 - ※ 生徒の遅刻を減らす。
 - ※ 生徒の読書習慣を確立する。
 - 生徒一人一人の進路目標に合った学力(それぞれの学力)を育成する。
 - 義務教育段階の学力修得を目的とした茨田検定(振返り学習)・「一般教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。
 - ※ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、授業以外の講習などを積極的に実施する。
 - ※ 生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現させる。
 - ※ 生徒の基礎学力を向上させることで、1年生・2年生の進級率を上げる。(H26年度1年89.7%・2年87.3%)
 - ※ 進路決定未定者の割合を下げる。(H26年度24.8%)
 - ※ 就職試験一次合格者の合格率を上げる。(H26年度57.7%)
- より良い人間関係づくりができる学校文化の創出
 - 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。
 - ※ 教員のコミュニケーション指導力を充実する。
 - ※ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。
 - ※ ピア・メディエーション(以下「PM」)クラブとコミュニケーションコースによる協同プロジェクトを立ち上げ、PM教育を牽引する。
 - ※ 教職員PM研修、PMステップアップ研修等を実施し、校内外におけるPMの理解促進及び普及を図る。
 - ※ 『コミュニケーションコース』の学校設定科目「コミュニケーション総合」の内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。
 - ※ English Speech Festival, English Day Camp を継続実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。
 - ※ 進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。
 - ※ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。
 - ※ 作成した「PM」のテキストを、校内で活用するとともに、そのノウハウを他校にも普及させる。
 - ※ 志学や道徳教育との関連性を重視した独自のコミュニケーション教育を構築する。
 - ※ 学校教育自己診断にコミュニケーション能力に関する項目を入れ、80%以上の生徒がコミュニケーション能力の向上を実感できる学校にする。
- 地域連携の推進
 - 地域連携を通じた生徒の成長
 - ※ 地域の活動に参加する。
 - ※ 地域の活動への参加回数を維持する。(H26年度16回)
 - ※ 地域の人々を学校に招聘する。
 - ※ 体育祭や文化祭、「いこいの広場」「地域交流エリア」等を利用して地域の人々を学校に招き、交流を持つ。
 - ※ 中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H26年度2回)
 - 広報活動の充実
 - ※ HPの充実
 - ※ HPを1週間に1回の頻度で更新する。(現在2週間に1回程度)
 - ※ 茨田ニュースの発行を継続する。
 - ※ 学校説明会の充実
 - ※ 学校説明会等における来校者人数を1000人に増やす。(H26年度904人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 (H27年12月実施予定)	第1回・第2回学校協議会からの提言・意見のまとめ
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生になってから学力がついたと答えた生徒が70%(昨年度69%)、授業で生徒が発表する機会があると答えた生徒は58%(昨年度55%)、授業が分かりやすいと答えた生徒が63%(昨年度58%)と増加。UD授業推進の効果が表れている。また日常的に放課後の学校や家庭で勉強している生徒は44%(昨年度35%)。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活についての先生の指導は納得できると答えた生徒が75%(昨年度65%)。一方、学校の生徒指導の方針に共感できると答えた保護者が83%(昨年度80%)で、頭髪・服装指導については75%(昨年度78%)、遅刻指導では86%(昨年度88%)、いじめや問題事象に対する指導については78%(昨年度79%)の保護者が適切であると判断しており、本校の生徒指導が保護者から受け入れられていると判断できる。 担任は相談や悩みに応じてくれると答えた生徒79%(昨年度73%)、保護者の相談に適切に応じてくれる86%(昨年度89%)等から生徒や保護者からの相談に対しては適切な対応ができていると判断できる。 <p>【HR、特別活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育祭が楽しく行えるように工夫されていると答えた生徒74%(昨年度73%)、文化祭69%(昨年度66%)。またクラス活動が活発であると答えた生徒は76%(昨年度71%)である。本校では教育活動のあらゆる場面を通じた生徒のコミュニケーション能力向上に取り組んでおり、HR、特別活動について更なる活性化をめざす必要がある。 部活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合は44%(昨年度39%)で低い。野球部が話題になったが、新たな取組を計画する必要がある。 <p>【コミュニケーション能力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で取り組んでいる授業の開始・終了時の声を出しての挨拶については、できていると答えた生徒が65%(昨年度62%)、一昨年度58%、職員室等への入室マナーを守っていると答えた生徒は83%(昨年度80%)、一昨年度79%)で取組の成果がみられる。 <p>【全体として】</p> <ul style="list-style-type: none"> 茨田高校に入学してよかったと思う生徒が80%(昨年度73%)、保護者が85%(昨年度87%)で、高い数字がでているが、継続した努力が必要。 	<p>第1回 6月25日(木)</p> <p>テーマ：0からのスタート。茨田高校生が一層良くなるために学校は何をすべきか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを考慮した学校教育の取り組みが必要。生徒の意識改革が重要になる。 ○国際化に伴う諸問題、ギリシャ問題、MERSなど生徒への情報提供が必要。英語教育の取り組みとして、それらを英語教育の必要性和結び付けるべき。 ○近隣へのアピール(中学生に対して伝わるもの)が必要。受験校の決定は、かつては保護者や教員の意見の占める割合が大きかったが、今は本人が考えて決めている。中学校でも自分で考えなさいと指導している。ネットや説明会等で高校の情報は誰にでも手に入れることができる。入試制度が変わって「どんな生徒が欲しいか」明確に示さなければいけない。 ○いかに子どもの意欲をかきたてるかが重要。○失敗を恐れずにどれだけ組み立てるか。 ○挨拶した時に、生徒の反応を見て見立てができるようになる先生の力量が必要。それが中退や問題行動の予防につながる。 <p>第2回 11月12日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートに茨田高校に対する愛着心を答えさせる項目を付け加えればどうか。愛校心があれば、自律心も芽生える。 ○学習規律は全教員で足並みをそろえなければなかなかうまくいかない。 ○中学校では、指導が厳しい先生ほど授業評価は高い。 ○高校でチャンスをつかみ成長する子と、そうでない子に分かれる。 ○地域参加型のイベントはお年寄りをターゲットにすると孫を連れてきてくれるので盛況になる。高校生がお年寄りにPCやスマホの使い方を教える企画などはありがたい企画だ。地域の祭りに生徒が企画段階から入れば生徒の成長につながるのでは? ○出口指導(進路保障)をしっかりして欲しい。中学校の教員はそこにも注目している。 ○自分よりかなり年下の児童・生徒と交わると行動がしっかりする。 ○色々な人の視点に立って社会を見る機会をつくるべき。 ○自分が「どう思われているか」、「どう思われたいか」を考えさせる。 ○茨田高校が取り組んでいることは間違っていない。教職員が疲れないようにして欲しい。 ○障害者差別解消法への取り組みで他者と出会う教育機会が必要。障がい者理解の推進。人にやさしくなれるか、合理的配慮ができる人を育てる。

- 第3回 2月25日(木)
- 18歳選挙権については、生徒会役員選挙方法と関連させてはどうだろうか。投票の結果が学校生活に反映されることで選挙の重要性を理解させたい。教員が方向性を持って生徒と話し合うことも重要。
 - メディアーターの立場は昔の小学校の週番と共通点がある。
 - アンケートで80%以上が同じ回答をしている場合は信憑性が高い。アンケート結果から茨田高校では先生と生徒の信頼関係が成り立っている。人権感覚は浸透しているが障がい者に対する意識改革には課題が残る。生徒に考えさせる機会が多いのは良い。記憶力より考える力が必要。
 - 学校の評判を上げるには時間がかかる。マイナス評価が一つあると全員がそう思われる。良い取り組みとリンクするとマイナスがプラスになる。ただ化粧をしている子がいるのはマイナス評価であるが、中退しそうな子が頑張っているという取り組みとつながるとプラス評価になる。
 - 茨田高校を希望する中学生を増やすためにどう広報していくかも重要。取り組みを地域へ発信すべきだ。
 - 子どもは、茨田は平和で楽しいと言っている。
 - 昔の喫煙しながら登校していた様子に比べるとずいぶん良くなった。
 - 大学では就職説明会の保護者参加率は高い。保護者向けのイベントも必要である。
 - 自己肯定感、自尊感情が、前向きに生きる力を出す要因である。クラブ活動の低迷は寂しい。ボランティアで生徒が町で何かをやっている機会を作るのも必要。
 - アクティブラーニングが言われているが知識があって発展できる。職員の研修も重要。
 - トイレがきれいになると学校が落ち着く。施設課に陳情に行くべきだ。考える力の向上が必要。教育の質を高めることを目標にして欲しい。LGBT理解教育が必要。LGBTの生徒を視野に入れた取り組みが必要。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	<p>(1)『わかる・楽しい・規律ある授業』を実現するための教員の授業力向上</p> <p>ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施</p> <p>イ 教員相互の授業見学や研究授業の実施</p> <p>ウ ICTを活用した授業改善と業務軽減</p> <p>(2)生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上</p> <p>ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場(自習室・図書館)を整備したうえで、教員が生徒を個別指導できる体制をつくる。</p> <p>イ 生徒の遅刻を減らす。</p> <p>ウ 生徒の読書習慣を確立する。</p> <p>(3)生徒個々の進路目標に合った学力を育成する。</p> <p>ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振り返り学習)」「一般教養講座」、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。</p> <p>イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習を積極的に実施する。</p> <p>ウ 生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となって、若手育成に当たっている研修組織(青葉会)を、本校勤務年数が少ない教員へも拡大する。</p> <p>・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導する。</p> <p>・年度当初に、ユニバーサルデザインの観点に即した教室整備を行う。</p> <p>イ・授業見学週間を春と秋に1回ずつ設定して、すべての教員が年間5回以上の授業見学を行う。</p> <p>・授業見学した教員が「授業見学シート」を必ず記入して授業者に渡すことで、授業内容についての話し合いができる機会をつくる。</p> <p>・教員全員を、教科や教職経験年数等で偏らないグループ(ユニット)に分け、各ユニットで授業力向上に関連する研修を自主的に企画実施する(ユニット研修)。</p> <p>・ユニバーサルデザイン授業の取組みを実施することで、本校生徒の理解がより深まる授業を行う。</p> <p>ウ・校内の視聴覚機器、大型プリンター等を活用して、ユニバーサル授業の観点に立った教材作成を行う。</p> <p>・生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・放課後に、自習室と図書室へ教員が必ず常駐し、生徒に対する個別学習指導にあたる。</p> <p>・定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、特定の時期に応じた生徒の個別学習を充実させるように、各教科が教材準備や指導を行う。</p> <p>イ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を行う。</p> <p>・遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行う。</p> <p>ウ・毎日の終礼、総合的な学習の時間、LHR、基礎教養などの時間を利用して、年間を通じた「10分間読書」活動を企画実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・「茨田検定」を全学年で年度当初から計画的な問題作成と冊子化に取り組み、一般教養的内容を取り込む。</p> <p>・成績不振者への指名補習、個別指導を充実させる。</p> <p>イ・2・3年生で学業成績に基づくクラス編成を実施し、成績の推移を分析しながら、各授業で生徒の学力向上をはかる。</p> <p>・外部機関の資格試験(漢検・英検・P検(パソコン検定・数検)等)を活用して、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。</p> <p>・発展・応用的学力の習得をめざす講習を、1年生から実施する。</p> <p>ウ・進学希望者に対して、進路希望に応じた多様な講習を2年生から実施する。</p> <p>・就職希望者に対して、インターンシップや試験対策講座を2年生から実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・拡大した青葉会の研修を年間で12回実施する。</p> <p>・年度当初の授業見学において、次の2点を重点的に指導する。(授業規律)</p> <p>生徒の机上の整理整頓(ユニバーサルデザイン)</p> <p>教室の掲示物・板書の状況</p> <p>イ・授業見学シートの提出状況を、教員1名平均5枚にする。</p> <p>・年度末に各ユニットの研修成果を発表する機会(プレゼン)を設け、校内での共有化を図る。</p> <p>・ユニバーサルデザイン授業に関する研修等に年間3回参加する。</p> <p>ウ・生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を70%以上にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・自習室を100日以上開室する。</p> <p>・学校教育自己診断の「日常的に放課後学校で学習したり、家庭で学習している」の項目に肯定的な答えを出す生徒の割合を50%にする。</p> <p>イ・年間遅刻総数を10000人以下に減少させる。</p> <p>ウ・「10分間読書」を年間で10日実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・全学年の茨田検定問題を冊子化する</p> <p>・各中間考査後と夏季・冬季休業期間中に、座学教科で成績不振者への指名補習を実施する。</p> <p>・1年生、2年生の進級率をそれぞれ90%以上にする。</p> <p>イ・1年生全員が英語検定を受験するよう指導する。</p> <p>・各種外部機関の資格試験総受検者と総合格者を今年度より増加させる。(H26年度の総受検者261人、総合格者178人)</p> <p>ウ・1・2年の進学、就職希望者対象の各種講習について、開講講座数と講習への総参加者を、今年度より増加させる。(H26年度の開講講座数10、総参加者64人)</p> <p>・進路決定未定者の割合を10%以下にする。(H26年度24.8%)</p> <p>・就職試験一次合格者の合格率を70%以上にする。(H26年度57.7%)</p>	<p>ア・12/16回実施(△)</p> <p>・教室の前壁に授業前の整理整頓を喚起する張紙を掲示し、各教員が指導している。(○)</p> <p>イ 初任者研究授業を対象としたユニット研修を研究協議5回総括1回の計6回実施。観察する観点を明確にするなど質が向上した。(○)</p> <p>・見学シートは研究協議に発展的に吸収した。</p> <p>・UD授業に特化した授業を2回実施。</p> <p>ウ・授業力向上研修を年3回実施。ICT活用技術・伝達講習を行う。肯定的な回答は63%に留まる。さらなる取組が必要。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア 自習室126日の開室(○)</p> <p>・図書室の開館日は昨年と変わらず。図書館の常駐教員を2名配置し、放課後はほぼ毎日開館しているので増やす余地がない。(○)</p> <p>・肯定的な回答44%(前回35%)</p> <p>イ・遅刻数昨年度比20%減が目標だが10%減。在籍者数は増加しているが遅刻総数は年々減少している。H27年12217人(△)</p> <p>ウ・5、11月実施。合計10回(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・3学年冊子が完成。(○)</p> <p>・成績不振者補習は充実。制度として定着した。</p> <p>・進級率は1年生77.2%、2年生88.7%であと一歩届かず(△)</p> <p>イ</p> <p>・国、数、英、小論文、看護系進学対策、就職対策の講習を通年実施中(○)</p> <p>・漢検134名 英検153名 P検9名数検2名の合格(◎)</p> <p>ウ</p> <p>・開講講座数10、総参加者75人</p> <p>・進路未決定者は15名、割合は、8.8%(◎)</p> <p>・就職試験1次合格率は、76.1%である。2次以降で内定をもらっている。(○)</p>

府立茨田高等学校

<p>2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出</p>	<p>(1)生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。</p> <p>ア 教員のコミュニケーション指導力を充実する。</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>ウ ピアメディエーション(以下「PM」)クラブとコミュニケーションコースによる協同プロジェクトを立ち上げPM教育を牽引する。</p> <p>エ 教職員PM研修、PMステップアップ研修等を実施し、校外におけるPMの理解促進、普及を図る。</p> <p>オ 『コミュニケーションコース』の学校設定科目「コミュニケーション総合」「PMⅠ」「PMⅡ」の内容をより充実させる。</p> <p>カ English Speech Festival, English Day Camp を継続実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>キ 進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>ク 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・定例のコミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化対策を立案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員それぞれが、生徒のコミュニケーション能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有するとともに、特に優れた取組については本人によるプレゼンを行い、全体化することで、教員のコミュニケーション指導力を向上する。 ・PMの技法を応用し、自分を大切に、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。 <p>イ・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底した上で、その効果をアンケートで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをテーマとしたホームルーム(「コミュニケーションHR」)を実施し、志学と連携したコミュニケーション教育を充実する。 ・生徒によるプレゼンイベントを実施する。 <p>ウ・PMクラブを活性化するとともに、コミュニケーションコースと連動したPMプレゼンテーションプログラムを開発し、校外で活用する。</p> <p>エ・「PM」のテキストを活用し、教職員PM研修を校内で実施するとともに、教職員PM講習会を実施し、校外にも普及を図る。</p> <p>オ・「コミュニケーション総合」で落語家などの著名人や大学教授等を招き、充実したコミュニケーション教育を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PMⅠ」「PMⅡ」の授業内容を整理し、教材及び指導方法を確立、継承する。 ・「PMⅠ」「PMⅡ」履修生徒の中からNPO法人シヴィルプロネット関西によるメディエーター認定試験の合格者を出す。 <p>カ・English Speech Festival の継続実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Day Camp の継続実施。 <p>キ・生徒が職場訪問し、職場の人とコミュニケーションを取る機会を増やす。</p> <p>ク・体験入部等年度当初の新入部員獲得に向けた行事の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を活用した部活動の活性化。 ・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を招待したイベント「茨田フェス」の開催。 ・「部活動の日」(毎週金曜日/生徒、教員共に、部活動への参加を促す取組み)のさらなる充実。 	<p>(1)</p> <p>ア・コミュニケーション委員会を年20回以上、コミュニケーション担当者会議を年5回(年度初め、各学期、年度終わり)開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で教員による「コミュニケーション能力向上取組プレゼン」を年2回実施。 ・教職員PM研修で全教職員が「聴く技術」を学ぶプログラムを入れ、年1回実施。 <p>イ・25項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施し、20項目以上での数値向上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションHRを年3回実施。 ・生徒会活動と連携し、プレゼンイベントを年1回実施。 <p>ウ・PMプレゼンテーションプログラムを充実し「人権文化交流発表会」や学校説明会などで年3回発表。(H26年度は人権文化交流発表会などで2回発表)</p> <p>エ・教職員PM研修を校内で年1回実施。(アの内容を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府下の全教職員対象に、本校主催で年3日実施してきた教職員PM講習会を、教育委員会と連携して年1日実施する。 <p>オ・コミュニケーションコース選択生徒アンケートで「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒の割合を80%以上(H26年度71%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PMⅠ」「PMⅡ」を担当できる教員を養成し、2名以上確保。(H26年度2名確保) ・メディエーター認定証取得者10名以上。(H26年度12名) <p>カ・English Speech Festival の継続実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Day Camp の継続実施。 <p>キ・2年生で行うジュニアインターンシップ参加人数20名。</p> <p>ク・平成27年度入部率を50パーセントにする。</p>	<p>ア・コミュニケーション委員会は年23回、コミュニケーションコース担当者会議は年5回開催された。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による取組プレゼンは年2回実施。(○) ・聴く技術を含むコミュニケーション技法を全教職員で学ぶ教職員PM研修を年1回実施。(○) <p>イ・数値が向上したのは19項目。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションHRを年3回実施。特に第1学年については年4回実施(◎) ・生徒会主催の「文化のつどい」にPM部員が参加し、ポスター発表をしたが、プレゼンイベントは実施できず。(△) <p>ウ・パワーポイントによるPMプレゼンテーションを作成し、PM部員が年2回(人権文化交流発表会、寝屋川支援学校交流会)PMを紹介。(△)</p> <p>エ・教職員PM研修を2月4日に実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センター主催の「学校教育相談実技研修A」(2日間)の内1日を、本校がこれまで主催してきた「教職員PM講習会」の内容で行い、講師として本校教員を2名派遣。(◎) <p>オ・「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒は91%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PMⅠ」「PMⅡ」ともに本校教員2名で担当。(○) ・メディエーター認定証取得者5名。(受験者は25名)(△) <p>カ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Speech Festival 12月17日実施(○) ・English Day Camp 9月26日実施(○) <p>キ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年ジュニアインターンシップの参加者は12名(10社)であった。(△) ・応募前職場見学140社 <p>ク・入部率28%(△)</p>
<p>3 地域連携の推進</p>	<p>(1)地域連携を通して生徒の成長を促す</p> <p>ア 地域活動に参加する。</p> <p>イ 地域の人々を学校に招聘する。</p> <p>(2)広報活動の充実</p> <p>ア HPの充実</p> <p>イ 茨田ニュースの発行を継続する。</p> <p>ウ 学校説明会の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 地域活動への参加回数を維持する。(H26年度16回)</p> <p>イ・体育祭や文化祭、「いこいの広場」「地域交流エリア」等を利用して地域の人々を学校に招き、交流を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H26年度2回) ・今年度もPTA文化教室に地域の人の参加枠を設ける。 <p>(2)</p> <p>ア HPを1週間に1回更新する。(H26年2週に1回程度)</p> <p>イ 茨田ニュースの発行回数(年間4回)を維持する。</p> <p>ウ 学校説明会等における来校者の合計人数を1000人に増やす。(H26年度904人)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 地域活動への参加回数16回</p> <p>イ・年間1回以上の招聘を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回以上の開催。 ・年1回の実施。 <p>(2)</p> <p>ア・1週間に1回の更新をする。</p> <p>イ・4回以上の発行</p> <p>ウ・来校者の合計人数を1000人に増やす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 16回(○)</p> <p>イ・「文化のつどい」初開催(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨田カップ年2回で現状維持(△) ・文化教室実施26名参加(○) ・茨田高ツアー16名参加(2) <p>(2)</p> <p>ア 2週間に1回程度の更新に留まる。(△)</p> <p>イ 4回発行(○)</p> <p>ウ 570人(昨年904人)昨年比10%減(△)</p>